

株式会社ソラシドエア

統合レポート
2015



BRAND PROMISE

空から笑顔の種をまく。

“Seed Smiles in the Sky.”

経営理念	安全理念	行動指針 (5カ条)
企業経営における目的・基本方針 安全を経営の最重要課題とし、サステイナブルな企業経営と地域社会への貢献を目指す	最も重視すべき「安全」に対する考え方 安全は経営方針の最重要課題であり、航空輸送の原点である	社員として遵守すべき行動のあり方・考え方 1. 「安全」こそ経営の根幹、徹底して守り続けます 2. 「お客様」の満足を追求し、こだわり続けます 3. 「地域」と「社会」と共に歩み続けます 4. 「持続可能な成長」に向けて、チームワークを大切に、常にチャレンジしていきます 5. 活力ある「好い会社」を創る為、明るく元気に努めます
お客様の利用しやすい運賃とハートあるサービスの提供	安全の確保には相互信頼と良好なコミュニケーションが必要である	
地域社会および地域経済活性化への貢献	社員は安全に対する責任を自覚し、絶えず努力しなくてはならない	
少数精鋭によるたゆまぬ経営努力と好い人材の育成		

INDEX

I Corporate Principles イントロダクション	II Creation of Value and Capital ソラシドエアの歩みと価値創造プロセス
経営理念・安全理念・行動指針 社長メッセージ・目次	ソラシドエアの歩み・沿革・価値創造プロセス — 3
III Corporate Efforts ソラシドエアの取り組み	IV Corporate Governance ソラシドエアのすがた
1. 安全への取り組み — 5 2. 運航業務への取り組み — 7 3. 整備業務への取り組み — 9 4. 運送業務への取り組み — 11 5. 営業への取り組み(競争戦略) — 13 6. 地域と共に発展するための取り組み (地域戦略) — 15	1. 経営計画の概要 — 17 2. 人財マネジメント — 18 3. 財務状況 — 19 4. 会社概要 — 21 5. コーポレート・ガバナンス — 22

- 本文中の「ソラシドエア」「当社」は株式会社ソラシドエアを指します。
- 当社とコードシェア運航をしている全日本空輸株式会社様は当レポートでは「ANA」と表記しています。その他関係先様についても敬称を略しています。

社長メッセージ

当社は、2002年8月に宮崎－羽田線に就航して以来、13年間、重大な事故もなく運航してまいりました。この間一貫して「安全」を経営の最重要課題とし、サステイナブルな企業経営と交通インフラを担う企業として地域社会への貢献を目指しております。また2015年12月1日、社名を株式会社ソラシドエアとあらため、新たな第一歩を踏み出こととなりました。当社がさまざまな資本をいかに活用し、想定されるリスクに対処しつつ、価値創造に取り組んでいるか、以下に簡潔に述べます。

(1) 財務資本

自己資本47億円の効率的な運用に努めております。

(2) 物的資本

新造機ボーイング737-800型機を2011年7月から投入し、2014年10月に旧機材からの更新がすべて完了、2015年3月には新たに12号機を投入しております。最新鋭機の導入により、安全性と高品質が確保されると共に省エネルギーにも貢献しております。さらに地上でのオペレーション設備の高度化も推進しております。

(3) 人的資本

716人の人財(うち運航乗務員98名、客室乗務員205名)が日々、経験を深め、専門知識を吸収しつつ業務に取り組んでおります。また社内研修システムの充実にも努めております。

(4) ネットワーク資本

当社は、九州を拠点として東京、沖縄を結び国内10路線1日68便の運航を行っております(九州－羽田線5路線1日50便、沖縄線5路線1日18便)。また当社はANAとコードシェア契約を締結しており、お客様の利便向上に加え、運航上の高品質化にもつながっております。さらに2015年10月には当社として初の国際線チャーター便(宮崎－高雄)も運航しました。

(5) 自然・社会資本

当社は、九州、沖縄と東京、神戸、中部を結ぶ空の旅を年間160万人のお客様に提供しております。九州、沖縄の豊かな自然環境が保護され地域社会が発展することは当社の長期的な成長の原動力であり、このためにも地域社会との連携は重要と考えております。

本レポートは、株主、お客様、事業パートナーの皆様、地域社会を構成する多くのステークホルダーの皆様に、当社の価値創造のプロセスをご理解いただくために取りまとめたものです。当社は今後とも安全、安心で快適な空の旅を提供していくことによって、地域になくてはならない企業を目指し、「ソラシドエア」ブランドの価値をより一層高めてまいります。なお一層のご支援とご理解をお願い申し上げます。

株式会社ソラシドエア
代表取締役社長

高橋 洋



たゆまぬ経営努力

「空から笑顔の種をまく。」ソラシドエアは一歩一歩着実に、
新鋭機材の導入・人財の育成・ネットワークの充実を図ってきました。
2008年3月期決算から8期連続して黒字を継続、2014年6月から配当も開始しました。
ソラシドエアは「九州・沖縄の翼」として安全・快適・経済性を実現し、
サステナブルな成長を目指しています。



ボーイング737-400型機 定員150名
就航 2002年8月～2014年9月



ボーイング737-800型機 定員174名
就航 2011年7月～

ソラシドエアの歩み

	[決算年月]	2007年3月	2008年3月	2009年3月	2010年3月	2011年3月	2012年3月	2013年3月	2014年3月	2015年3月	
[財務資本]	営業収入	百万円	19,363	22,342	22,657	24,273	26,345	29,226	30,655	34,937	35,624
	営業利益	百万円	-1,033	378	144	388	1,056	655	1,945	1,568	1,076
	経常利益	百万円	-1,149	63	133	270	825	650	1,843	1,350	1,598
	当期純利益	百万円	-559	113	96	251	769	536	1,101	71	1,536
	資本金	百万円	1,934	1,934	1,934	1,934	2,345	2,345	2,345	2,345	2,345
	発行済株式総数	株	177,374	177,374	177,374	177,374	209,008	209,008	209,008	209,008	212,564
	純資産額	百万円	26	139	236	520	2,256	2,695	4,219	4,144	4,763
	総資産額	百万円	5,945	4,793	4,989	6,897	8,501	9,687	10,759	14,791	16,335
	1株当たり純資産額	円	123.56	123.62	1,978.30	4,360.55	14,940.11	17,852.52	27,941.04	21,572.13	22,407.44
	1株当たり配当額	円	—	—	—	—	—	—	—	100	500
	1株当たり当期純利益金額	円	-4,780.36	-94.54	-238.44	1,060.54	4,661.54	2,725.46	6,467.23	-356.43	8,190.57
	自己資本比率	%	0.4	2.9	4.7	7.5	26.5	27.8	39.2	28	29.1
	ユニットレベニュー※1	円	9.3	10.6	11.0	10.1	9.9	9.7	9.6	9.0	8.8
	ユニットコスト※2	円	9.8	10.4	10.9	9.9	9.5	9.5	9.0	8.6	8.5
	自己資本利益率	%	—	137.1	51.3	66.4	55.4	21.6	31.8	1.7	34.5
[物的資本]	ボーイング737機材数 400型機	機	8	7	8	9	10	9	6	4	—
	800型機	機	—	—	—	—	—	3	6	9	12
[人的資本]	従業員数	人	497	479	501	586	668	686	714	702	716
[ネットワーク資本]	有償旅客数	人	903,577	994,468	981,651	963,712	1,026,008	1,159,801	1,345,873	1,556,697	1,606,127
	提供座席キロ	千席・キロ	1,528,695	1,599,346	1,531,996	1,626,170	1,745,226	1,948,392	2,118,132	2,527,006	2,675,898
	有償旅客キロ	千人・キロ	944,980	1,072,337	1,056,852	1,027,828	1,086,162	1,215,414	1,410,343	1,645,700	1,702,048
	有償座席利用率	%	61.8	67.0	69.0	63.2	62.2	62.2	66.5	65.1	63.6
	運航便数	便	12,464	12,906	12,860	15,534	17,204	19,332	19,504	22,151	22,331
	九州人口※3	千人	14,686	14,653	14,616	14,595	14,596	14,580	14,555	14,523	14,484
	九州延べ宿泊者数※4	万人泊	—	4,466	4,457	4,262	4,927	6,052	6,208	6,948	6,951

*1 ユニットレベニュー=座席キロ当たりの営業収入 *2 ユニットコスト=座席キロ当たりの営業費用 *3 総務省統計局統計調査より

*4 國土交通省九州運輸局宿泊旅行統計調査より

財務資本	総資産163億円、純資産47億円、自己資本利益率34.5%(2015年3月期)
物的資本	ボーイング737-800型機12機、平均機齢2年 安全、快適、省エネルギー運航の実現
人的資本	従業員716名(うち運航乗務員98名、客室乗務員205名、2015年3月末現在)
ネットワーク資本	九州・沖縄と東京・神戸・中部を結ぶ10路線全便、ANAとの共同運航
自然・社会資本	九州・沖縄の発展とともに成長

「ソラシドエア」の価値創造プロセス

- 財務資本の効率活用
- + 統一機材による安全性・快適性・低コストの実現
- + 運航・整備・運送・スタッフ部門の人財の育成
- + 省エネルギー運航による環境負荷の軽減
- + 九州・沖縄と東京・神戸・中部とのつながり

「空から笑顔の種をまく。」
九州・沖縄の翼として
安全・快適・経済性を実現し
サステナブルな成長を目指す。

[2015年度※5計画]
営業収入……372億円
営業利益……16億円
当期純利益……9億円
ユニットコスト……8.04円

*5 2015年4月1日～2016年3月31日

安全運航の堅持と運航品質の向上を目指し、人財育成を強化

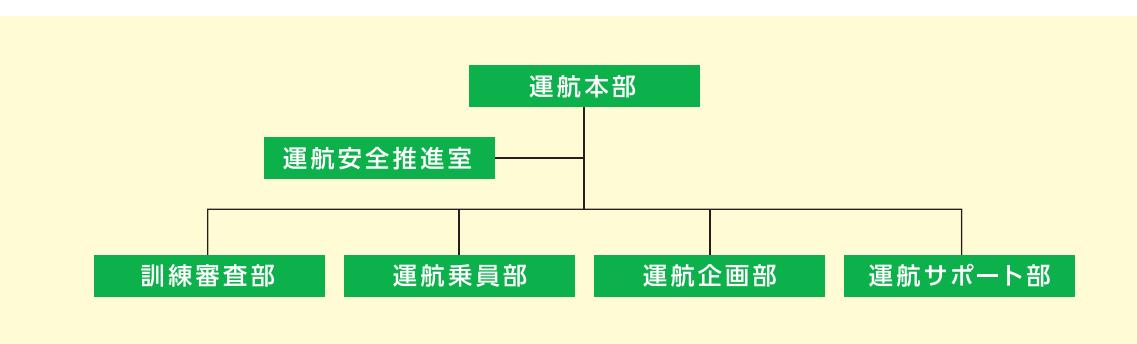
安全運航を堅持するための組織

運航本部は、航空機を操縦する運航乗務員と、日々の運航と運航乗務員を支える地上スタッフで構成されています。

運航乗務員は機長と副操縦士で構成され、安定的に運航を行うために必要な操縦士を確保しています。地上スタッフは、運航乗務員の乗務スケジュール作成や健康管理等、直接運航乗務員を支える運航乗務部、操縦士の養成および操縦士の技倆維持のための訓練・審査の管理を行う訓練審査部、日々の運航状況をモニターし、不具合事象を未然に防ぐ運航本部全体の安全をつかさどる運航安全推進室、航空機の運航に必要な航法、航空機システム等の技術支援を行う運航サポート部等で構成されています。

運航の安全は、航空機の性能と人によって維持されるものであり、運航本部では人財育成の強化に組織的に

取り組んでいます。副操縦士の養成に当たっては、約1年間の訓練期間中、操縦士として必要な知識・技倆の習得はもちろんのこと、操縦士の前に社会人としての規律や考え方について訓練を通して、指導しています。



運航乗務員の養成と技倆維持

運航乗務員の養成は、航空大学校および私立大学操縦士養成課程等を修了した者を採用し、ボーイング737型機の資格を取得させ、副操縦士に任用する養成課程と副操縦士から機長に昇格させる養成課程に区分されます。当社は副操縦士の養成から機長昇格まで一貫した訓練体制を構築し、自社養成運航乗務員による運航を行っています。副操縦士から機長昇格までの期間としては、最短で6年となっており、この6年間で知識・技倆を向上させるため、日常技倆管理制度を導入し、運航乗務員一人一人の技倆レベルと傾向の管理を行っています。

また、2012年6月に指定本邦航空運送事業者としての指定を国から受け、国の運航審査官に代わって、当社の検査操縦士が定められた「範囲内の機長」の審査を実施する

体制となっています。これは運航乗務員の訓練・審査に関わる体制および能力が認められた証しです。



シミュレーター訓練



取締役
運航本部長
増田 秀隆

副操縦士から機長への昇格課程

Stage昇格 Program



Stage制度を取り入れ、副操縦士の経験・技倆に応じて、育成を管理

※ATPL=定期運送用操縦士

安全運航への取り組み

会社全体の安全を管理する安全推進室とは別に、運航本部には運航安全推進室を設置し、運航に関わる安全管理を徹底しています。

運航安全推進室では、日々の運航状況を一便一便モニターし、不安全な操作・運航等を未然に防止する活動

を行うとともに快適な運航についてのアドバイスを運航乗務員に行っています。また、世界中で発生する事故事象を運航乗務員に適切に紹介する等、安全意識の啓発に取り組んでいます。

高規格運航方式の導入

近年、わが国においては、GPSの活用を前提とした高精度で効率の良い運航方式や、低視程時にも安全な着陸を可能とする高カテゴリー計器着陸装置の導入が

進められています。当社もこれらの新技術を積極的に導入し、運航品質の向上を図ることにより、お客様の利便性を高めています。

燃料使用量の削減に向けた取り組み

定時性や快適性の確保を前提に、飛行方式の工夫や飛行経路の見直しにより、燃料消費量の削減を目指す

「エコフライト」を推進しています。

人財育成

自社で養成した機長を中心とした会議を設定し、日々の運航に関わる課題や効率的な運航の検討、業務改善の取り組みを行いながら、将来を担う若手機長の人財育成に取り組んでいます。すでに20名以上の自社養成機長が管理職・検査操縦士・各教官操縦士等に任用され、組織運営ならびに技倆管理の中心となってきています。

また、地上スタッフにおいても、運航本部配属後は、

運航本部として必要な一定の知識教育やOJTを実施するとともに、年2回運航本部研修会等の教育を実施し、当社の将来を担う若手の育成に注力しています。



地上スタッフ 本部研修会



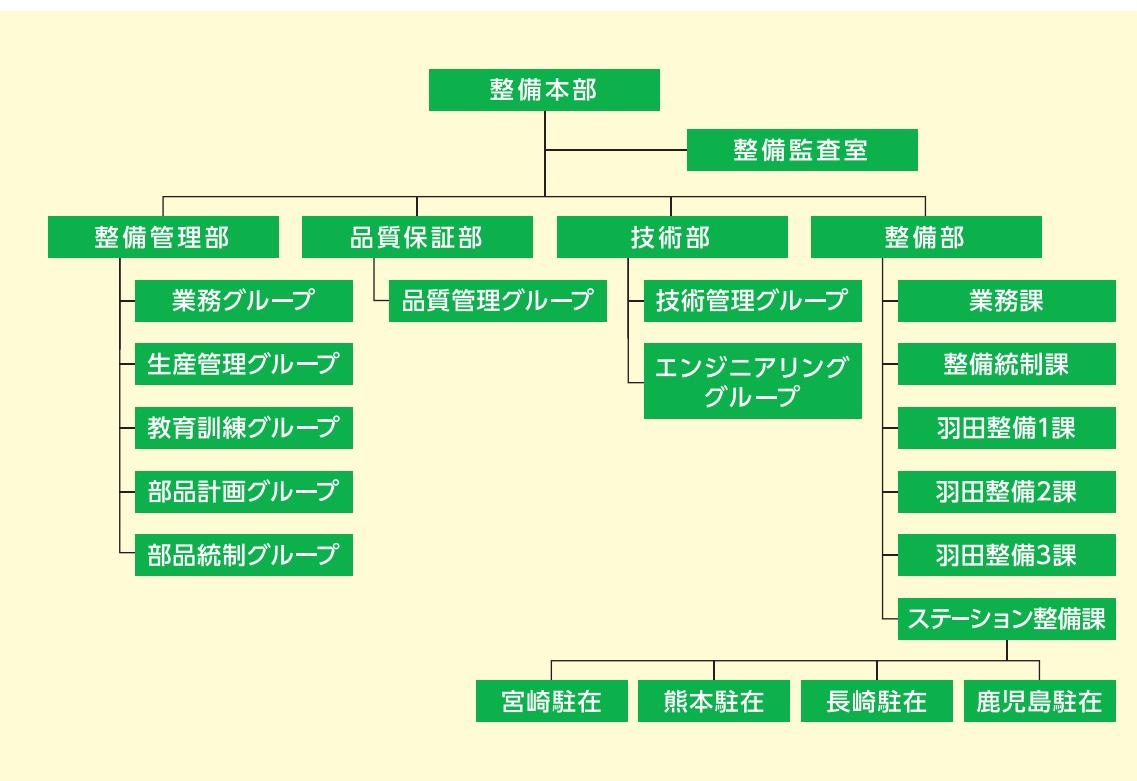
執行役員
整備本部長
古川 勇次

航空機材品質＆整備コストで日本No.1に向けて

機体整備のための組織

整備部門は、航空機を安全に、かつお客様に快適な機内空間をご提供するためには、出発前および飛行間で点検整備を行う整備士と、整備作業を実施するための基準となる規定類の改訂、整備計画の立案、部品管理等の業務を行うスタッフで構成されています。

整備士と整備スタッフは、機材品質の維持・向上と整備コストの適正化の実現に向けて、日々努力、連携し、お客様の満足度向上を目指しています。



ビジネスモデル

最新鋭機材の運用

当社は、最新鋭のボーイング737-800型機を12機運航していますが、いずれも機齢が5年未満と新しく、適切な整備体制により、高品質で安全な空の旅を提供しています。

自社ライン整備と整備の委託

出発前および飛行間での点検や不具合修復を行う整備は、羽田空港をはじめとする5拠点で自社の整備士で整備業務を行っており、また、現場を支えるスタッフ業務についても自社で運営しています。これにより、機材導入をはじめ、航空会社として必要不可欠な機体整備に関するノウハウ等を確実に蓄積しています。

那覇空港をはじめとする5拠点における出発前および飛行間での整備作業の一部についてはANAに委託しており、また、定期的な重整備(6,000飛行時間ごとまたは4,000サイクルごとに実施する大規模整備)においてはANAグループの整備会社や海外の整備会社に委託し、各社から高品質な整備業務の提供を受けています。

ソラシドエアでは、自社体制により整備業務に係る

ノウハウの蓄積を図るとともに、高い品質を誇るANAをはじめとする企業に一部整備作業を委託する等、合理的な体制・運営でお客様へ高品質な機体による安全で快適な空の旅を提供しています。



訓練・審査・検査・システム

① 整備士は、航空機を安全に運航させるために、最新技術により設計・製造された機体を構成する各システム・部品が正常に機能しているかの点検・整備を行っており、専門的な知識や能力が必要とされます。社内訓練と現場における経験を積み、国家資格である一等航空運航整備士、一等航空整備士資格を取得し、さらに社内の訓練と経験を積み重ね、審査に合格することにより社内資格が付与されます。また、資格取得後も知識等の維持向上のため2年ごとに定期訓練を受講しています。

② 整備部門では、整備本部長直轄組織の整備監査室および社長直轄組織である安全推進室からの定期的な社内監査を受けています。整備監査室では、自社整備部門および整備委託先に対して、業務が規定通りに行われているかの監査を行い、不適切な事項等については、是正処置を指示します。

認定事業場

当社の羽田空港整備基地は法令上の基準に適合する事業場として、航空機等について、認定を受けた業務を

実施した場合は、国の検査の一部を省略することができる認可を国から受けています。

連続式耐空證明

当社は、国土交通省より、整備規程に基づき適切な整備体制が確立され、かつ、十分な能力を有し、これらに基づき適切な整備等が行われることにより継続的に安全性が確保されると認められました。このことにより

機体ごとの年1回の国土交通省による耐空検査が免除されています。そのため機材の稼働を止めることなく予備機材として確保することが可能となり、定時性の確保とお客様の利便性の向上に寄与しています。

システム

当社では、米国のTRAX社が開発し国内外の主要な航空会社でも利用されている整備管理システムを導入しています。このシステムにより、航空機の技術・品質管理、整備記録やその他の文書管理、生産計画の立案、経理システムと連携した財務会計など、整備業務に係る重要な項目について適切に管理しています。また、当社では、米国の

テレディン社が開発した運航中の航空機の状況を常時ワイヤレス通信で地上に送信するシステムを導入しており、これにより地上の整備部門がリアルタイムで航空機の状況を把握し、的確かつタイミングで整備ができる体制を構築しています。これらにより、お客様に安全・快適な空の旅をご提供できるよう機材品質の向上を図っています。



取締役副社長
運送本部長
上田 幸彦

全てはお客様満足のために

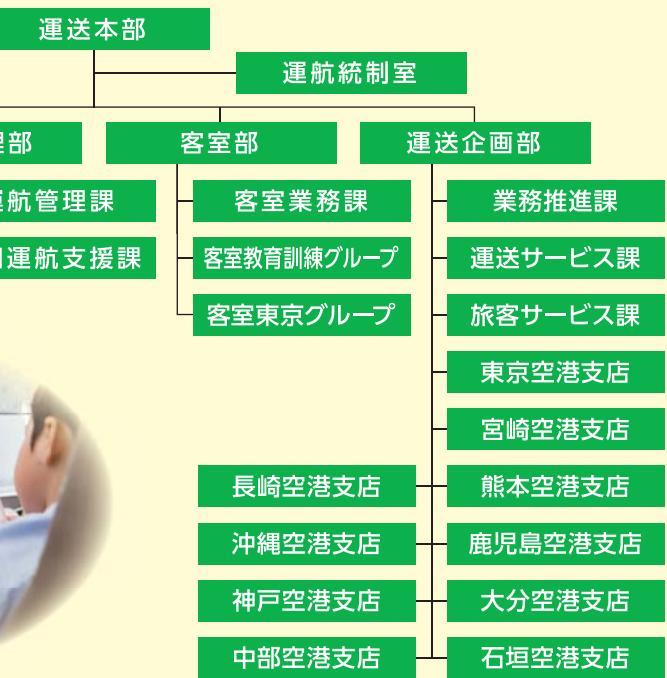
取り巻く環境を勘案し、
当社の立ち位置を見極めしっかりと足場を固める

運送・空港・機内の組織

フロントスタッフ

ソラシドエアでは、初就航以来13年以上にわたって多くのお客様にご搭乗いただいている。当社のフロント業務では直接お客様の旅行を支えている職種として、空港旅客職員と客室乗務員があります。

空港旅客職員は羽田空港に自社の社員を約60名配置(その他の空港はANAに委託)しており、お客様のストレスのない円滑な旅行を支えるため、チェックイン業務や改札業務を実施しています。また、客室乗務員は約200名在籍していますが、機内では笑顔でお客様をお迎えし、ホスピタリティ溢れるサービスでおもてなしをするほか、保安要員という大変重要な役割を担っています。そのため、約2カ月に及ぶ初期訓練のほか、万一の際には、お客様の安全を確実に守れるよう、1年に1回必ず緊急時に対応できるよう定期訓練を受講しています。当社の空港旅客職員と客室乗務員は、ブランドプロミスである「空から笑顔の種をまく。」の実現に向けて、空港・機内との間で境のないサービスを実現するため日々努力しています。またどのタッチポイントでも



ビジネスモデル

空港サービス

お客様の約50%が女性である当社は、特に女性に喜ばれるエアラインとして、2014年度より“ソラ女子プロジェクト”と称し、各部署の女性スタッフが企画・立案したソラシドエアらしいサービスの提供を進めています。中でも“ソラシドファミリーサポート”は、公共交通機関での移動に苦労するお子様連れのお母さんを対象とした空港での温かみある搭乗サポート等のサービスで、利用者から好評を得ています。今後も女性向けサービスをはじめ、ブランドプロミス「空から笑顔の種をまく。」を

基とした空港でのサービス提供に向けて取り組んでいきます。



機内空間とおもてなし

当社は、ボーイング737-800型機を12機運航していますが、最新鋭機材によるボーイングスカイインテリア(LED照明やスタイリッシュな手荷物収納スペース)をお楽しみいただけるほか、シートピッチも平均31.9インチ(81cm)と標準的なものより広く配置しています。

機内では、就航地の特産品を用いたアゴユズスープをはじめとした飲み物の無料サービスや、機内のみでお

求めいただけるオリジナル商品の販売を行っています。また昨年からスタートしたソラ女子サービスとして、新たに無香料・無着色・ノンカフェインのハーブティー、保温性と手触りにこだわったブランケット、くつろぎアイテムとしてクッション、女性優先化粧室「ソラ女子ルーム」にはささやかなアメニティも用意して、お客様に快適な空の旅を提供しています。

【機内インテリア】

最新客室「ボーイング・スカイインテリア」を採用



【シートピッチ】

平均81cmの余裕ある座席間隔でゆとりある空の旅を提供



空港オペレーションでの戦略的エコ活動

ソラシドエアでは、燃料削減およびエコ活動を行うことにより、環境に配慮した運航を行っています。たとえば、機内で使用する水の搭載量適正化により飛行中の機体重量の減少を図り、使用燃料を節約(CO₂削減)する活動を行っています。また、夏場において駐機中の機

内温度が上昇することから、サンシェードを下ろし、冷房に使用する燃料の削減を図っています。駐機中は機体に電気を供給するための補助エンジンを停止し地上施設の電源やエアコンを利用し燃料を削減する活動を行っています。

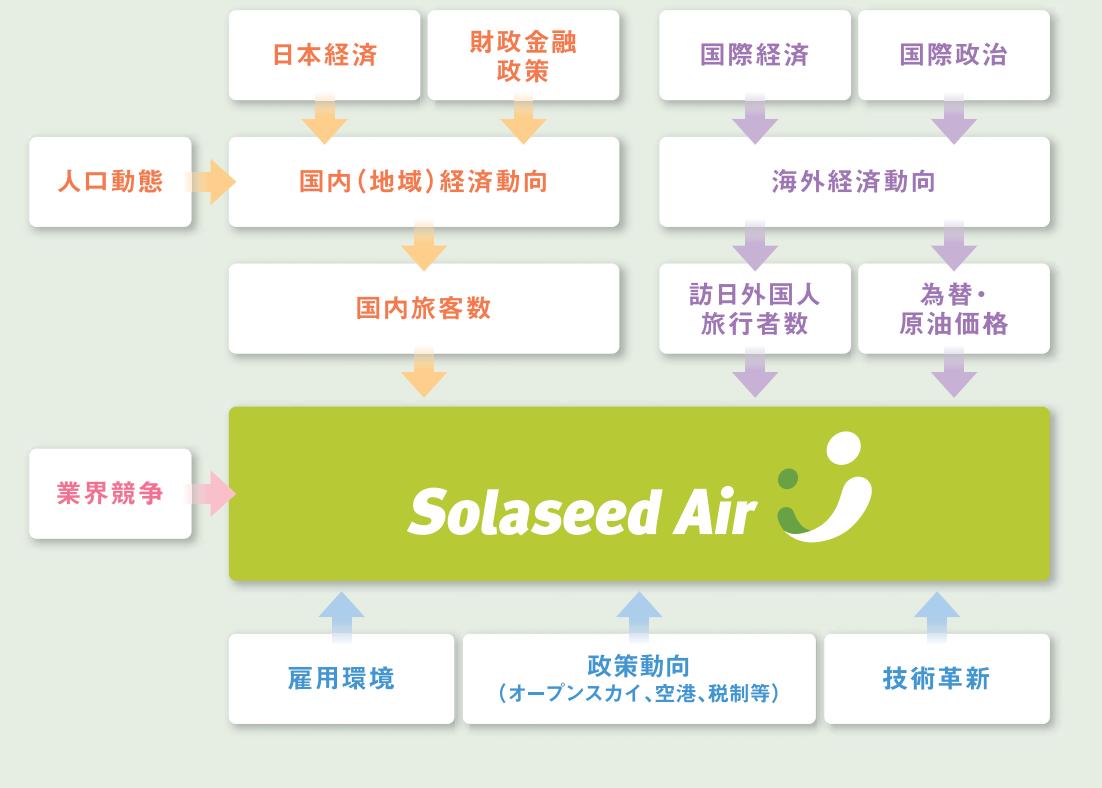
専務取締役
鈴木 信行

収益最大化に向けた営業力強化

当社を取り巻く競争環境

当社を取り巻く航空業界は、目まぐるしく状況が変わる厳しい競争環境の下にあります。このような中、当社がお客様に選ばれるエアラインになるためには、経営ビジョン「新たな成長に向け、強いソラシドエアになる」の具現化が必要です。外的要因としては、原油価格は大幅に下落していますが、円安の進行とあわせてマクロ環境の悪化は当社収支に大きな影響を与えています。一方、競合他社は運賃・サービス面での攻勢を強め、LCC(Low Cost Carrier)の急速な事業拡大により競争環境は厳しさを増しています。このような競争環境下にあっても、創業以来の理念であるお客様にご利用いただきやすい運賃の提供を継続し、引き続きお客様に選ばれるエアラインとして経営ビジョンの具現化に努めています。

経営環境



ビジネスモデル

ANAとの提携

当社は、2006年4月よりANAとコードシェア運航を行っており、当社の安定収益の柱の一つになっています。また機内のサービス面においてもANAと同品質のフル

サービスを行っており、ドリンクサービスや九州・沖縄の食品や特産品を中心としたソラシドブランド商品の機内販売をしています。

利用しやすい運賃、多様な商品

運賃については、75日前までの予約で大変お得な運賃「バーゲン75」をはじめとする「バーゲンシリーズ」、急な出張に便利な「特売リーシリーズ」やWeb限定販売の「カケコミWeb割」のほか、法人のお客様にはご搭乗日当日まで予約が可能で、しかもお得な運賃「ソラシドbiz割」を2015年4月より導入するなど、個人・法人を問わずご利用いただきやすい運賃を多数提供しています。

また旅行需要の取り込みについては、これまでソラシドエアオリジナル商品「女子旅」やパッケージ商品等で対応していました。2015年10月よりお客様が航空券と宿泊施設、レンタカーなどその他のオプションを自由に組み立てができるダイナミックパッケージ「ソラシド+(ぷら

す)」の販売が開始されたことで、これまで以上にお客様のニーズにお応えすることが可能となりました。充実した各種運賃と新商品「ソラシド+(ぷらす)」で販売拡大を志向していきます。

そのほか、機内誌「ソラタネ」については就航地の食や文化などをいろいろな角度から紹介しています。2015年7月より機内のみならず当社のホームページからも「ソラタネ」を閲覧できるようになりました。「地域に密着したエアライン」として引き続き就航地の情報発信にも努めています。

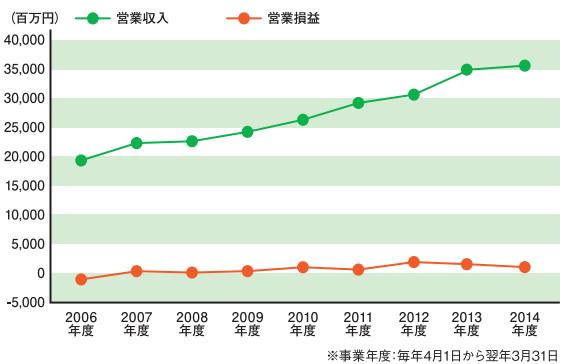


今後の営業戦略

営業収入および年間旅客数の推移

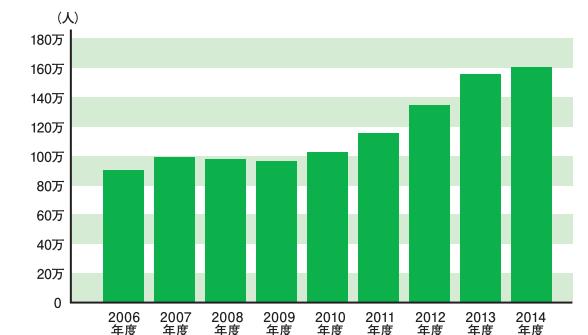
2002年8月に宮崎→東京(羽田)線に就航して以来、「九州・沖縄の翼」として九州を拠点とした路線展開を行ってきました。2015年3月より沖縄から名古屋(中部)、石垣への路線を加え、現在国内10路線1日68便の運航を行っています。

営業収入・営業損益の推移



行っています。路線の拡大と共に当社の販売高及び旅客数は、堅調に推移して、2014年度決算では、年間旅客数が1,606千人となり営業収入は35,624百万円となっています。

有償旅客数の推移



重点施策と路線展開

首都圏に向けて、これまでさまざまなキャンペーンや法人セールスを積極的に展開することで認知度向上を図ってきました。近年のスマートフォンなどのモバイル端末普及に伴い、従来の活動に加えWebでの広告宣伝活動の強化に努めています。例えばWeb検索サイト上に広告を掲載することでさらなる認知度向上を目指すほか、自社で運営するFacebookやLINEといったソーシャルネットワークサービスを通して、運賃やイベントのお知らせなどを潜在ユーザーに対し効果的に提供することで搭乗促進へつなげていきます。

また、スマイルクラブについては現在約15万人の会員を擁していますが、会員に対するサービス内容の充実はこれまで課題となっていました。そこで新しいサービスとして12月1日から会員を対象に「Solaseed Airカード」の発行

を開始しました。このカードはクレジットカード機能がプラスされた上、カード利用により貯まったポイントをソラシドエアのマイルへ交換できるとても便利なカードです。これからもスマイルクラブ会員ならびにお客様の満足向上を目指しサービスを提供していきます。

路線展開に関しては将来の国内人口の減少に伴い市場の縮小が予想されることから、新たな路線展開として2015年10月には、初めて台湾への国際線チャーター便を就航しました。



専務取締役
鈴木 信行

九州・沖縄の翼として、地域に根差したエアライン

路線展開

現在、宮崎―東京(羽田)線の運航便数が、年間全運航便数の22%を占め、最も大きな路線であり、また東京(羽田空港)と他の九州就航地を結ぶ路線(宮崎を含む)は、全路線

の約80%を占めています。このことからも九州・沖縄の発展が当社の長期成長の原動力になると考えています。



[2014年度 運航・輸送実績]

就航ルート	運送実績		運航便数
	旅客キロ	座席キロ	
宮崎―東京	423,565,989	674,967,216	5,019
熊本―東京	370,349,892	500,433,144	3,624
長崎―東京	287,357,058	414,279,207	2,901
鹿児島―東京	288,008,974	524,660,862	3,606
大分―東京	175,328,896	319,989,248	2,894
鹿児島―沖縄	39,084,754	58,809,430	1,429
宮崎―沖縄	23,007,456	33,172,862	711
神戸―沖縄	94,920,252	149,139,468	2,153
名古屋―沖縄	227,850	232,260	6
石垣―沖縄	197,768	214,760	12

旅客キロ：有償で運送した旅客数と運送した距離(単位：キロ)を掛けたもの
座席キロ：運送に使用する航空機の座席数と飛行距離(単位：キロ)を掛けたもの

項目	2013年4月1日 ～2014年3月31日	2014年4月1日 ～2015年3月31日
有償旅客数 (人)	1,556,697	1,606,127
提供座席キロ (千席・キロ)	2,527,006	2,675,898
有償旅客キロ (千人・キロ)	1,645,700	1,702,048
有償座席利用率 (%)	65.1	63.6

*上記には、ANAへの座席販売分を含めていません。

地域ポテンシャル

ソラシドエアは、拠点とする九州・沖縄の魅力を全国に発信し、地域と地域を結ぶ人の交流、モノの交流を促進させ、地域経済の活性化を図ることも大切な役割の一つだと考えています。

当社は、地域から愛され、地域になくてはならないエアラインとなることを目指し、機内誌や機内販売等あらゆる機会を通じて、九州・沖縄の情報発信に努めています。

長崎県
[人口] 114万人
[県内総生産] 4.4兆円 第一次産業 2.8%
第二次産業 18.4%
第三次産業 78.8%

観光資源
[世界遺産] • 明治日本の産業革命遺産
- 小菅修船場跡・高島炭坑
- 三菱長崎造船所関連施設
- 端島炭坑・旧グラバー住宅

[国立公園] • 雲仙天草・西海
[国定公園] • 壱岐対馬・玄海
[国宝] • 崇福寺・大浦天主堂

空恋プロジェクト
• おむらんちん号

熊本県
[人口] 183万人
[県内総生産] 5.6兆円 第一次産業 3.2%
第二次産業 22.6%
第三次産業 74.2%

観光資源
[世界遺産] • 明治日本の産業革命遺産
- 三池炭鉱
- 三池炭鉱 専用鉄道敷跡
- 三角西(旧)港

[国立公園] • 阿蘇くじゅう
[国定公園] • 那須日向山系・九州中央山地
[国宝] • 吉井阿蘇神社

空恋プロジェクト
• くまモンGO! • VISITあまくさ号

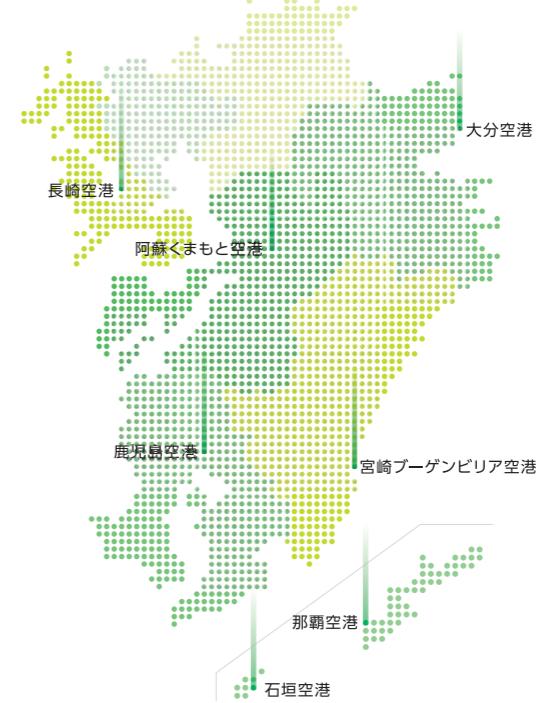
鹿児島県
[人口] 170万人
[県内総生産] 5.4兆円 第一次産業 3.6%
第二次産業 18.5%
第三次産業 77.9%

観光資源
[世界遺産] • 明治日本の産業革命遺産
- 旧集成館(反射炉跡)・機械工場、
- 旧鹿児島紡績所技師館
- 寺山炭窯跡・関吉の疊水溝

[国立公園] • 奄美群島・甑島
[国定公園] • 日南海岸・霧島錦江湾

空恋プロジェクト
• 元気ファクトリー錦江町号

九州・沖縄の就航各県の概要



路線別搭乗率実績推移

路線	2011年4月1日～2012年3月31日	2012年4月1日～2013年3月31日	2013年4月1日～2014年3月31日	2014年4月1日～2015年3月31日
宮崎―東京	61.4%	68.5%	67.9%	62.8%
熊本―東京	69.3%	68.8%	69.8%	74.0%
長崎―東京	59.9%	64.2%	70.7%	69.4%
鹿児島―東京	69.1%	69.9%	64.2%	54.9%
大分―東京	60.2%	67.0%	58.8%	54.8%
鹿児島―沖縄	56.1%	64.3%	52.3%	66.5%
宮崎―沖縄	67.5%	76.3%	56.1%	69.4%
神戸―沖縄	—	—	39.2%	63.6%
名古屋―沖縄	—	—	—	98.1%
石垣―沖縄	—	—	—	92.1%
熊本―沖縄	57.7%	50.8%	—	—
長崎―沖縄	47.6%	59.4%	—	—

*上記には、ANAへの座席販売分を含めていません。

地域との相互連携

ソラシドエアは、九州・沖縄の自然・社会との調和、共栄を図るために、以下のようなさまざまな取り組みを行っています。

- 就航地の窓口となる空港支店長・エリアマネージャーの配置
- 地域産品、地域とのコラボ…機内誌を通じた情報発信、地域の特産品を活かした機内販売等
- 地域貢献活動…地域の祭りへ協賛・参加、環境保護活動への支援・参加、社会福祉活動等
- 空恋プロジェクト…機体に自治体名やキャラクターを表示し、情報発信する地域振興プロジェクト



「まつりえこっちゃんやざき」に参加・協賛



空恋プロジェクト

大分県
[人口] 120万人
[県内総生産] 4.2兆円 第一次産業 2.2%
第二次産業 28.7%
第三次産業 69.0%

観光資源
[国立公園] • 阿蘇くじゅう • 濑戸内海
[国定公園] • 耶馬日田英彦山
• 祖母傾
• 日豊海岸
[国宝] • 宇佐神宮本殿
• 富貴寺大堂
• 白杵磨崖仏群

空恋プロジェクト
• 世界農業遺産の里国東市号

宮崎県
[人口] 114万人
[県内総生産] 3.5兆円 第一次産業 4.4%
第二次産業 20.4%
第三次産業 75.3%

観光資源
[国立公園] • 霧島錦江湾
[国定公園] • 祖母傾 • 九州中央山地
• 日豊海岸 • 日南海岸

空恋プロジェクト
• 線ユネスコエコパーク号 • 西良米カリコボーズ号
• 神話のふるさとみやざき号
• 霧島山のふもとたかはる号
• 九州の楽園宮崎市号 • 天孫降臨ひむか共和国号
• 肉と焼酎のふるさと都城号

沖縄県
[人口] 142万人
[県内総生産] 3.8兆円 第一次産業 1.4%
第二次産業 13.2%
第三次産業 85.1%

観光資源
[世界遺産] • 琉球王国のグスク及び関連遺産群
- 今帰仁城跡・座喜味城跡・勝連城跡
- 中城城跡・首里城跡・玉陵・識名園
- 園比屋武御嶽石門・斎場御嶽
[国立公園] • 西表石垣 • 慶良間諸島
[国定公園] • 沖縄海岸 • 沖縄戦跡

空恋プロジェクト
• 春咲へひとつ飛び!沖縄やんばる号
• 沖縄やんばる花めぐり号

出典：経済産業省九州経済産業局および沖縄県企画部統計課資料

強いソラシドエアを目指して

経営ビジョン

「新たな成長に向け、
強いソラシドエアになる」

定量目標

- 財務**
売上高営業利益率 5%以上
(ユニットコスト 7.99円)
- オペレーション品質**
就航率 99.0%以上
定時出発率 93.0%以上



（役員紹介）

① 代表取締役社長 高橋 洋	⑥ 常勤監査役 遠山 直樹
② 取締役副社長 上田 幸彦	⑦ 執行役員 古川 勇次
③ 専務取締役 鈴木 信行	⑧ 執行役員 宮本 尊
④ 常務取締役 吉村 浩一	⑨ 執行役員 野田 鉄郎
⑤ 取締役 増田 秀隆	

事業戦略

機材計画

2015年3月末にボーイング737-800型機を1機増機し、12機体制となりました。将来を見据えた適正機種、機材数の検討を進めています。

路線便数計画

① 国内線

2015年夏ダイヤより沖縄一名古屋線(1往復/日)・石垣線(2往復/日)に就航し、沖縄発着路線を拡充、収益最大化に向け、競合環境等を勘案し既存路線便数について継続して再検討を行っています。

那覇空港の2020年拡張までのステップとして、沖縄路線の強化について引き続き検討を行っています。

② 国際線

2015年10月に国際チャーター便の運航を実施しました。

生産量計画

ボーイング737-400型機(150席)からボーイング737-800型機(174席)への機材更新の完了と、2015年夏ダイヤからの沖縄一名古屋線・石垣線の新規路線開設により、2015年度以降は2014年度と比較して9% (提供座席キロベース) の生産量増加を見込んでいます。

運航便数(便)		提供座席数(千席)			提供座席キロ(百万)				
2014年度	2015年度	2016年度	2014年度	2015年度	2016年度	2014年度	2015年度	2016年度	
全路線	22,324	24,639	24,639	3,848	4,287	4,287	4,064	4,431	4,431
2014年度比	100.0%	110.4%	110.4%	100.0%	111.4%	111.4%	100.0%	109.0%	109.0%

損益計画

さらなる売上規模拡大・コスト最小化に向けた取り組みを実行し、営業利益率5%ならびに安定的な利益確保を前提に、ステークホルダーへの還元を目指します。

※事業年度:毎年4月1日から翌年3月31日

	2015年度	2016年度
売上高	372億円	374億円
営業利益	16億円	16億円
営業利益率	4.4%	4.4%
当期利益	9億円	9億円
ユニットコスト	8.04円	8.08円
為替前提(¥/\$)	123円	123円
原油単価前提(\$/B)	63ドル	63ドル

社員一人ひとりが「笑顔になれる」「誇れる」「元気になる」「好い会社」の実現

「お客様」や「地域社会」の期待に応えるために、仕事への情熱と誇りを持ち、自ら価値を創造できる“プロフェッショナル”人財を育成します。また、お互いを尊重し、オープンなコミュニケーションにより“ソラシドエアらしさ”を追求する自由闊達でチャレンジングな組織への変革を実現します。

組織・人財戦略におけるビジョン&ポリシー

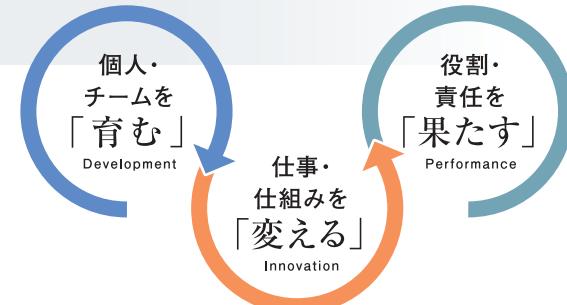
- 自発的な考え方や意欲を重視し、一人ひとりの個性や強みを最大限に生かす
- 失敗を恐れずに、情熱を持って、チャレンジする人財を育成する
- プロフェッショナルとして責任を果たし、チームへ貢献する組織風土をつくる
- 仕事を基準とした評価・処遇により、会社の成長と個人の成長を一致させる
- 上司は部下の人財育成に責任を持ち、会社は企業としての魅力を高める



ソラシドエアの求める人財像

当社の求める人財像として3つのKeyword 「育む」「変える」「果たす」をコアに個々人のモチベーションと能力を高め、組織のパフォーマンスを向上させます。

また、競争に打ち勝つためには、大局的な視点で現状を見極め、変革を推進し、自ら率先して行動できる人財を育成し、組織力の強化を図っています。



人財育成のプログラム

ソラシドエアでは、国家資格や各職場において求められる専門スキルの教育・訓練のほか、一般職から管理職に至るまでの期待役割に応じた階層別教育研修を実施しています。

また、総合職掌においては毎年定期的にキャリア面談を実施し、組織の人財ニーズと個人のやる気や適性とのマッチングを図るため、教育や人財配置に活用しています。



執行役員
人事部長
野田 鉄郎

働きやすい職場環境づくり(ワークライフバランスの充実)

- 当社は社員のワークライフバランスを重視し、「仕事も生活も充実させ、空から笑顔の種をまこう!」をキャッチフレーズに、心身の健康の保持増進や働き方の意識改革、職場のコミュニケーション強化を目的として総労働時間の削減に努めています。2014年2月にはその成果が認められ、整備本部 整備管理部 部品統制グループが内閣府の推進する『力エルの星』に航空会社として初めて認定を受けました。
- また、仕事と子育てを両立させ、女性が安心して働きやすい職場づくりに取り組み、2015年6月には次世代育成支援対策推進法に基づく“子育てサポート企業”として厚生労働大臣より“くるみんマーク”的認定を受けました。

- 2015年12月の労働安全衛生法の一部改正によるストレスチェックの義務化に先駆け、当社は2012年度よりメンタルヘルスケアプログラム(EAP)と組織診断の分析結果を活用し、社員の心身における健康の保持・増進を図っています。また、福利厚生(ベネフィット)パッケージサービスを導入し、余暇を積極的に活用することでワークライフバランスのさらなる継続強化に努めています。



常務取締役
吉村 浩一

強固な収益基盤を築き、持続的成長を図る

経営概況

ソラシドエアは安全運航を最重要課題としつつ、高収益体质に向けた構造改革に取り組んできた結果、2007年度から連続黒字を計上し、2013年3月期決算には累積損失の解消、2014年6月には、初の配当を行い、

2014年8月には、A種優先株式が全株普通株式へ転換されました。また2014年10月にはすべての航空機材の新型更新(全機新造機からの導入)が完了しています。(長期業績推移は3~4ページもご参照ください。)

2014年度の業績概況

2014年度は、景気が緩やかな回復基調となる中、原油価格は下落したものの、円安の進行や航空業界の価格競争が激化しました。こうした環境下、機材大型化等により提供座席数2,530千席(前事業年度比5.8%増)を増やし、有償旅客数を1,606千人(同3.2%増、有償座席利用率63.6%)とし、営業収入は35,624百万円(同1.9%増)と過去最高となりました。事業費31,489百万円(同3.4%増)、販売費及び一般管理費3,057百万円(同4.4%増)を合算した営業費用は34,547百万円(同3.4%増)に増加しましたが、ユニットコスト(座席キロ当たり営業費用)は8.50円(同1.1%減)に低減させました。営業利益は1,076百万円(同31.3%減)となり、為替差益等により経常利益は1,598百万円を実施しています。

円(同18.3%増)となりました。旧型航空機材の退役、リース返却等に係る特別損失118百万円を計上し、税引前当期純利益は1,479百万円(同745.8%増)、当期純利益は1,536百万円(同2,060.8%増)となり、8期連続黒字、過去最高利益を達成しました。2014年度末の財政状態は、総資産16,335百万円(うち現金及び預金3,267百万円)、負債11,572百万円、純資産4,763百万円となりました。主要な経営指標は、1株当たりの純資産額は22,407.44円、1株当たりの当期純利益金額は8,190.57円、自己資本比率は29.1%、自己資本利益率は34.5%となりました。なお2015年6月には配当106百万円(1株当たり配当額500円)を実施しています。

連続貸借対照表

貸借対照表 (単位:百万円)

	2011年3月31日	2012年3月31日	2013年3月31日	2014年3月31日	2015年3月31日	構成比
資産の部	8,501	9,687	10,759	14,791	16,335	100%
流動資産	4,938	6,026	6,274	6,935	6,807	41.7%
現金及び預金	2,439	3,318	2,829	3,588	3,267	20.0%
営業未収入金	1,255	1,587	1,669	1,798	1,811	11.1%
その他	1,243	1,120	1,775	1,548	1,728	10.6%
固定資産	3,559	3,659	4,484	7,856	9,527	58.3%
有形固定資産	889	877	687	4,713	4,458	27.3%
航空機(純額)	—	—	—	4,250	4,002	24.5%
その他	889	877	687	462	456	2.79%
無形固定資産	269	267	242	155	122	0.7%
投資その他の資産	2,401	2,514	3,554	2,987	4,946	30.3%
差入保証金	803	1,057	1,428	1,937	2,012	12.3%
航空機整備保証金	1,475	1,412	2,187	1,040	2,604	15.9%
その他	121	44	△ 62	9	329	2.0%
線延資産	2	1	0	—	—	—
負債の部	6,245	6,991	6,540	10,647	11,572	70.8%
流動負債	3,613	3,781	4,570	5,441	6,152	37.7%
営業未払金	3,053	3,256	3,887	3,936	2,929	17.9%
短期借入金	238	258	258	774	821	5.0%
その他	321	266	423	730	2,400	14.7%
固定負債	2,631	3,209	1,969	5,205	5,419	33.2%
長期借入金	881	622	363	3,968	3,897	23.9%
航空機材整備引当金	1,531	2,441	1,478	1,110	1,436	8.8%
その他	219	146	128	127	86	0.5%
純資産の部	2,256	2,695	4,219	4,144	4,763	29.2%
株主資本	2,080	2,616	3,718	3,789	4,424	27.1%
資本	2,345	2,345	2,345	2,345	2,345	14.4%
資本準備金	411	411	411	411	411	2.5%
利益準備金	—	—	—	—	90	0.6%
繰越利益剰余金	△ 676	△ 140	961	1,032	1,577	9.7%
評価・換算差額等	175	79	501	354	338	2.1%
負債純資産合計	8,501	9,687	10,759	14,791	16,335	100%

連続損益計算書

損益計算書 (単位:百万円)

	2010年4月1日 ～2011年3月31日	2011年4月1日 ～2012年3月31日	2012年4月1日 ～2013年3月31日	2013年4月1日 ～2014年3月31日	2014年4月1日 ～2015年3月31日	対売上高 構成比
営業収入	26,345	29,226	30,655	34,937	35,624	100%
事業費	23,296	26,074	26,291	30,440	31,489	88.4%
営業総利益	3,048	3,151	4,364	4,497	4,134	11.6%
販売費及び一般管理費	1,992	2,496	2,419	2,928	3,057	8.6%
営業利益	1,056	655	1,945	1,568	1,076	3.0%
営業外収益	41	103	376	353	766	2.2%
うち為替差益	—	—	360	339	618	1.7%
営業外費用	272	108	478	571	244	0.7%
うち支払利息	63	34	23	68	90	0.3%
うち為替差損	204	68	—	—	—	0.0%
うちリース返却負担費用	—	—	434	404	139	0.4%
経常利益	825	650	1,843	1,350	1,598	4.5%
特別損失	42	100	707	1,175	118	0.3%
うちリース解約損	—	85	533	998	111	0.3%
税引前当期純利益	783	550	1,135	174	1,479	4.2%
法人税・住民税及び事業税	13	13	34	103	382	1.1%
法人税等調整額	—	—	—	—	△ 439	-1.2%
当期純利益	769	536	1,101	71	1,536	4.3%
(参考) 剰余金の配当	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	
				(2014年6月)	(2015年6月)	
				(A種優先配当:-886)	(普通配当:-106)	
				(普通配当:-15)		

事業費明細書 (単位:百万円)

	2010年4月1日 ～2011年3月31日	2011年4月1日 ～2012年3月31日	2012年4月1日 ～2013年3月31日	2013年4月1日 ～2014年3月31日	2014年4月1日 ～2015年3月31日	対売上高 構成比
航空事業費	23,296	26,059	26,250	30,384	31,440	88.3%
I. 航行費	12,463	13,669	14,506	17,135	17,448	49.0%
うち燃料費・燃料税	7,632	8,502	8,855	11,156	11,423	32.1%
うち空港使用料	2,367	2,726	2,933	3,210	3,260	9.2%
II. 整備費	4,780	5,670	4,492	4,551	4,098	11.5%
III. 航空機材費	2,126	2,466	2,948	3,708	4,696	13.2%
うち航空機材リース料	1,894	2,223	2,730	3,264	4,233	11.9%
IV. 運送費	2,834	3,055	3,134	3,666	3,812	10.7%
V. 空港管理費	1,090	1,197	1,168	1,321	1,383	3.9%
その他	—	15	40	56	49	0.1%
事業費合計	23,296	26,074	26,291	30,440	31,489	88.4%

連続キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

	2010年4月1日 ～2011年3月3
--	------------------------

「持続可能な成長」に向けて、 内部組織の結びつきを強固なものにする

ソラシドエアの株主は2,177名です。株主の皆様からの期待に応えるため、取締役9名、監査役3名を株主総会で承認いただき経営を行っています。加えて2015年4月執行役員3名を新たに選出して、執行体制の充実に取り組みました。特に、2015年6月株主総会で社外取締役を2名から4名に増員、社外から常勤監査役を選出し、社外役員によるガバナンス強化を図っています。

主たる事業所は、本社は2011年5月宮崎空港ビル内に、ソラシドオペレーションセンターは2015年7月羽田空港新整備場地区に移転させて、主たる事業である定期航空運送事業に関する生産機能(運航、運送、整備)、お客様の満足度を高めるためのCS推進機能、

コーポレート機能(企画、営業、財務、人事、総務)、内部統制機能の一体的な運営に努めています。



本社(宮崎空港内)

ソラシドオペレーションセンター
(羽田空港新整備地区)

会社概要

商号	株式会社ソラシドエア(英語表記 Solaseed Air Inc.) 2015年12月1日より商号変更																						
設立	1997年7月3日																						
所在地	本社:〒880-0912 宮崎市大字赤江 宮崎空港内(宮崎空港ビル2階) ソラシドオペレーションセンター:〒144-0041 東京都大田区羽田空港3-5-10(ユーティリティセンタービル10階)																						
資本金	23億4,559万円																						
役員	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>代表取締役社長 高橋 洋(安全推進会議、内部監査)</td> <td>常勤監査役 遠山 直樹(社外監査役)</td> </tr> <tr> <td>取締役副社長 上田 幸彦(運航・運送・整備統括、人事、運送本部長)</td> <td>監査役 馬場 直澄(社外監査役、非常勤)</td> </tr> <tr> <td>専務取締役 鈴木 信行(企画、営業、CS)</td> <td>監査役 鳥原 浩二(社外監査役、非常勤)</td> </tr> <tr> <td>常務取締役 吉村 浩一(総務、財務)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>取締役 増田 秀隆(安全統括管理者、運航本部長)</td> <td>執行役員 古川 勇次(整備本部長)</td> </tr> <tr> <td>取締役 大野 和男(社外取締役、非常勤)</td> <td>執行役員 宮本 尊(総務部長)</td> </tr> <tr> <td>取締役 菊池 克穎(社外取締役、非常勤)</td> <td>執行役員 野田 鉄郎(人事部長)</td> </tr> <tr> <td>取締役 中島 弘明(社外取締役、非常勤)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>取締役 岑口 秀喜(社外取締役、非常勤)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					代表取締役社長 高橋 洋(安全推進会議、内部監査)	常勤監査役 遠山 直樹(社外監査役)	取締役副社長 上田 幸彦(運航・運送・整備統括、人事、運送本部長)	監査役 馬場 直澄(社外監査役、非常勤)	専務取締役 鈴木 信行(企画、営業、CS)	監査役 鳥原 浩二(社外監査役、非常勤)	常務取締役 吉村 浩一(総務、財務)		取締役 増田 秀隆(安全統括管理者、運航本部長)	執行役員 古川 勇次(整備本部長)	取締役 大野 和男(社外取締役、非常勤)	執行役員 宮本 尊(総務部長)	取締役 菊池 克穎(社外取締役、非常勤)	執行役員 野田 鉄郎(人事部長)	取締役 中島 弘明(社外取締役、非常勤)		取締役 岑口 秀喜(社外取締役、非常勤)	
代表取締役社長 高橋 洋(安全推進会議、内部監査)	常勤監査役 遠山 直樹(社外監査役)																						
取締役副社長 上田 幸彦(運航・運送・整備統括、人事、運送本部長)	監査役 馬場 直澄(社外監査役、非常勤)																						
専務取締役 鈴木 信行(企画、営業、CS)	監査役 鳥原 浩二(社外監査役、非常勤)																						
常務取締役 吉村 浩一(総務、財務)																							
取締役 増田 秀隆(安全統括管理者、運航本部長)	執行役員 古川 勇次(整備本部長)																						
取締役 大野 和男(社外取締役、非常勤)	執行役員 宮本 尊(総務部長)																						
取締役 菊池 克穎(社外取締役、非常勤)	執行役員 野田 鉄郎(人事部長)																						
取締役 中島 弘明(社外取締役、非常勤)																							
取締役 岑口 秀喜(社外取締役、非常勤)																							
	2015年6月末現在																						
大株主	所有株式数(株)	所有株式割合(%)	所有株式数(株)	所有株式割合(%)																			
株式会社日本政策投資銀行	47,656	22.41	株式会社テレビ宮崎	3,060	1.43																		
宮崎交通株式会社	36,200	17.03	双日株式会社	2,912	1.36																		
ANAホールディングス株式会社	36,200	17.03	九州電力株式会社	2,123	0.99																		
米良電機産業株式会社	14,040	6.60	株式会社大分銀行	2,038	0.95																		
株式会社宮崎銀行	5,900	2.77	東郷メディキット株式会社	2,000	0.94																		
羽田タートルサービス株式会社	4,000	1.88	三井住友海上火災保険株式会社	1,770	0.83																		
			計	157,899	74.28																		

事業の内容

当社の主たる業務は、定期航空運送事業です。

事業区分

- 定期航空運送事業
- 不定期航空運送事業
- 附帯事業

事業の内容

- 定期の航空機による旅客の運送
- 不定期の航空機による旅客の運送
- 航空運送に附帯関連する事業

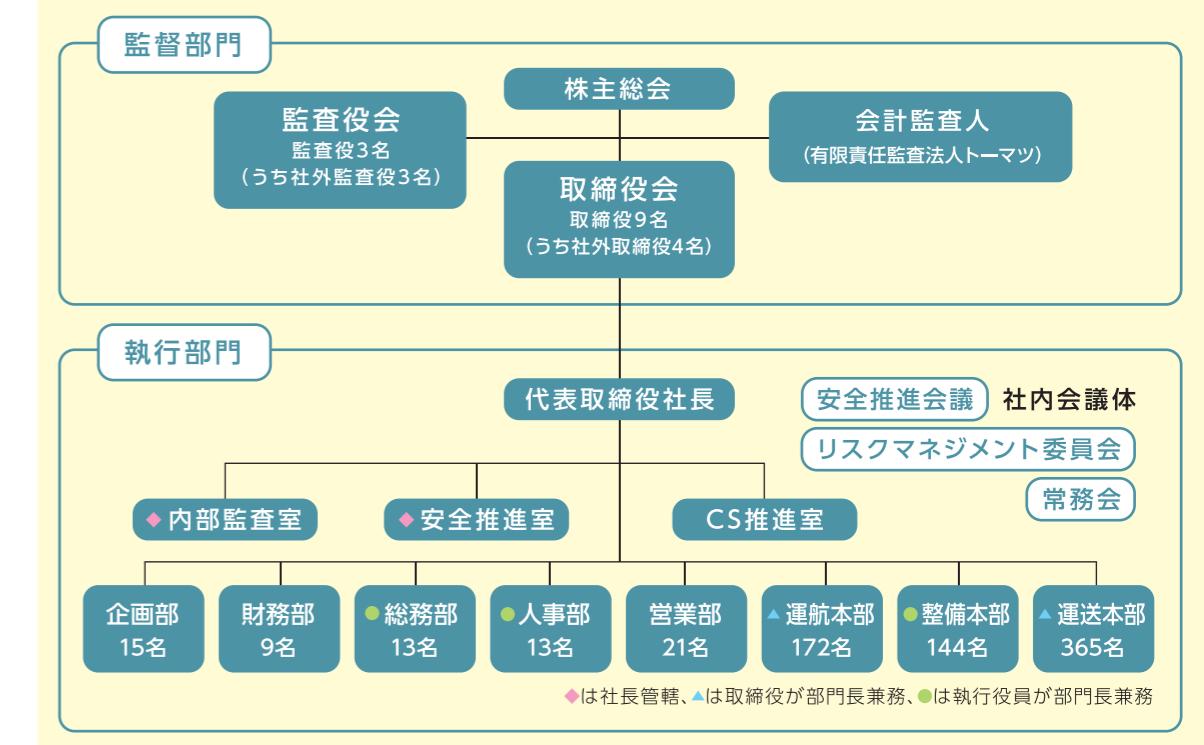
執行役員
総務部長

宮本 尊

会社の透明性を高め「社会」と共に歩む

ソラシドエアの組織・人員

当社は、法令遵守と企業倫理の重要性を認識し、一層の企業価値の向上を図るために、コーポレート・ガバナンス体制の整備に取り組んでいます。これからも、経営の透明性の確保と意思決定の迅速化により、競争力ある事業運営を目指していきます。



- 取締役会は、代表取締役社長が議長を務め、社外取締役4名を含む取締役全員と監査役3名で構成されており、各取締役の職務執行の監督および監査を行っています。(隔月または必要に応じて臨時に開催)
- 監査役会は、常勤監査役1名と非常勤監査役2名で構成され、監査役3名全員が社外監査役となっています。また監査役会を補佐するため、総務部内に監査役室を設置しています。
- 経営課題を迅速に審議するほか、運航現場における業務執行状況等の共有を図る会議体として、常勤取締役・常勤監査役の他、管理部門の執行役員等をメンバーとした常務会を設置し、取締役会を補完しています。
- 会計監査人は、会社法、金融商品取引法に基づく監査を実施しています。
- 内部監査については、社長直属の内部監査室が監査役および会計監査人と共に適宜連携を取りながら業務執行の評価・助言・改善提案を行っています。
- 各機能を遂行するのに必要な人員を上記の図の通り配置しています。

(本件は2015年4月1日現在の職員数を示しています)

常勤監査役
遠山 直樹



株式会社ソラシドエア

〒880-0912

宮崎市大字赤江 宮崎空港内(宮崎空港ビル2階)

<http://www.solaseedair.jp/>

2015年12月発行

お問い合わせ 総務部 TEL:0985-89-0123

